

経営者への活きた言葉

成功しない決断に意味はない 古森 重隆(富士フィルムホールディングス会長・CEO)

1. リーダーが決断を間違えると、組織は壊滅かいめつ的な打撃を被る。ゆえに、私は富士フィルムのCEO(最高経営責任者)として、100の決断をしたらそのすべてを間違えないという覚悟で日々の決断を下してきた。だが、決断の過程ではデッドラインのギリギリまで考え抜いても結論が出ないこともしばしばあった。腹を決め、可能な限りの情報を集め最後の最後まで考え抜く。それでも、はっきりとした優位性が見えない時が現実にあった。そのような時に、リーダーはどうすればいいのだから
2. 私は「いずれを選択しても正しいのかもしれない」と考えることにしている。意思決定には常にデッドラインがあり、ライバルの動向を含め情報も刻一刻と変化している。その中で、経営者が完全な情報で判断できる機会はまずない。それを恐れて、意思決定を先送りするくらいであれば、どちらを選んでも成功の確率に大差ないと腹を決めて、いずれかの方向に足を踏み出す方がいい。
3. もちろん、その後は選んだ道を全力で成功に結び付けなければならない。リーダーの力量は決めた方向に社員を導き、実際に成功させること。決めたことに全身全霊を傾けていく。成功しない決断に意味がない。「やる」と決めたら徹頭徹尾、スピーディーかつダイナミックにやらなければならない。

(参考:「日経ビジネス」2014年3月31日号)

経営者のための理念・哲学

天からの授かり

1. 人は皆、天からその人だけの真実を授かってこの世に生まれてくる。その真実を発揮していくことこそ、すべての人に課せられた使命である。自らの花を咲かせるとは、この天真を発揮して生きることに他ならない。
2. 坂村真民に「本気」と題する詩がある。「本気になると 世界が変わって 自分が変わってくる 変わってこなかったら まだ本気になっていない証拠だ 本気な恋 本気な仕事 ああ 人間一度 こいつをつかまんことには」相田みつをに次のような言葉がある。「プロというのは寝ても覚めても仕事のことを考えている。生活すべてが仕事。そこがアマチュアとの絶対差だ」。

(参考:「致知」:2014年7月号)